

に思つたのですか」。玉ちやんは、うなづいた。保「善い事をなさつたね。先生だつて可愛想に思ひましたよ」。用事を命ずる方法を執つてから先生に親しむ事が一通りでない。従つて先生も同感だと云ふ事は、彼の兒にとつて、千萬の賞言よりも嬉しうであつた。

二月十二日。玉ちやんの父が來られた。其言によると家庭でも、心身の發達が次第に著しく見え來た。そして先生を恭ふ事、先生の言動を眞似

## 小兒の傳染病

△傳染病とは何を指すか

傳染病といふのは、字が現す通り、うつる病氣であつて、その中に急性のものと、慢性のものとあります。急性の方は所謂流行病で、コレラ、チフス、猩紅熱等、却ち八大傳染病と云はれて居る

る事等、噴出しそうな事實迄を加へ話して其骨折りを謝した。保母は其父に今迄自分のとつた教育の方法、即なるべく精神に刺激を與へずに、氣長く習慣をつけた事、神經系統を特に養護した事、絶えず體格検査を保母自らした事、少し發達した所で感覺練習的事をした事、又偶然に良方法を見出した事、度々失敗した事等を語り、其父に満足せらるゝは金鵝勳章を拜した様である事をつけ加へて、尙今後の打合せをして別れた。

醫學士 石 塚 保 吉

類であります。慢性の方で最も有名なのは結核梅毒等であります。

△恐るべき細菌

傳染病はどうして起るかといふと、御存じの通り細菌の爲めに起るのであります。我々の肉眼

では見ることの出来ない、極めて小さい微生物、及び原生動物といふ極めて小さい動物が原因となるのであります。この世の中にそういうものが普く存在して居つて、都合のよい機會が來ると人間の體中に入り、それ／＼自分特有の病氣を起すのであります。二千倍位の顯微鏡で漸く見別けがつかつかぬかといふ程に小さい。その微生物の中にいろいろ種類があつて、それ／＼形にも、大きさにも違ひがあり、又種々のものに對する性質も異つて居ります。例へば或るものは酸素が好きであるし、或るものは酸素のある處では生活が出来ないといふやうなのであります。それで各々特別の名を持つて居つて、それ／＼異なる病氣を起します。例へばチフスの微生物は人體に入つてチフスを起し、コレラの微生物はコレラ、ペストの微生物はペストといふやうに微生物が異れば、それ／＼異ふ病氣を起します。

勿論そつういふ微生物は、すべてが病氣の原因となるのではなく、中には有用に働くものがある、酒

麥酒等を造るものになる微生物もあるのであります。斯ういふ微生物の性質を一々述べることは煩はしくもあり、興味もない、又さほど必要のものでありませんから略します。

#### △微生物の住む場所と來る道

微生物はどんな道を通つて人間の體に入るかといふに、種類に由つてそれ／＼入りかたが違ひます。コレラ、チフス、赤痢等の微生物は、食物と一所になつて口より入り、胃腸に達して病氣を起し、結核、インフルエンザ、ジフテリア等は空氣に混つて呼吸器から入り呼吸器病を惹き起し、ペスト、丹毒、産褥熱等は傷口から入り、梅毒、芥癬等は皮膚の表面に直接して病氣を起すのであります。

かゝる微生物は何處に生活して居るかといふと、それ／＼生活する場所が違ひます。破傷風の微生物は土の中に生活し、結核の微生物は結核患者の咳の中や、着物に附いて居り、チフス、コレラ等は患者の糞便と汚されたる場所又は物の中に潜んで居

るといふやうに場所は違ふが、至る所に生活して居るのであります。病氣の流行しない時は居ないのかと云ふと、そうではないので微菌自身に都合が悪い時だけが沈黙して居るといふまで、矢張り汚れた着物や、水中土中に生活は保つて居るのであります。例へば冬の間沈黙して居た微菌が、

夏になつて温度が丁度よくなり、食物になるものが多くなつてくると非常に繁殖するのであります。それを人が食べると直ぐに病氣になります。微菌は一旦自身の周囲が都合のよい状況になると恐ろしい勢で繁殖します。例へば着物に一の微菌がついて居た、それがどういふ加減かで人間の體の中に入ると、營養物はあり、温度もよい程にあ

た、かく、湿氣もあるから繁殖に極めて都合がよいのである。微菌の種類により早く繁殖するものと、晩く繁殖するものとありますが、早いものはたゞ一個の微菌が人間の體中に入ると十二時間に三十四億の多數になる。假に一個の微菌の長さを

一寸とすると實に七百七十里餘に上る譯であります。斯くの如きものに對しては非常の恐れを以て綿密なる注意により、その豫防の法を講じなくてはならないのであります。

#### △豫防法のいろく

恐るべき傳染病を防ぐには、その豫防法をとるのであるが、豫防法は微菌の種類に由つて違ふ方法をとらねばなりません。前に申したやうに人間の體に入り方が違ふのでありますから、結核等には常に空氣を換へて清淨にするやうにし、その病氣のある人の傍に行かない様にするとか、その病人のあつた家に、住まないやうにするとかであります。麻疹、インフルエンザ等の流行する時は電車其の他人込みの場所を避けるやうにし、コレラ、チフス等を防ぐには口に入るものは必ず煮たものでなければ用ひないことを嚴重に守るといふやうにすれば、決して病氣に罹る氣遣ひはない。又コレラやチフスは患者の大便から傳染するのである

から、そういふものに觸らないやうに、又それ等の汚物を洗つた疑のある水を使はないやうにすることが肝要であります。ペスト、丹毒等は手に傷をつけないうちに、若し傷がついたらば、保護して置くのである。斯様にして居れば先づ過は出來ないのであります。

#### △最も行はれ易い消毒法

我々は豫防法として以上の注意の外また微菌の汚れたるもの又は其疑あるもの、消毒法を行ひます。消毒法は即ち外から微菌が入らぬ様にするこゝと、微菌が入つたならば繁殖しないうちに退治すること、此の二つを包括して云ふのであります。即ち防腐と制腐とであります。微菌を殺す消毒法には種々の方法があります。藥物を以てするもの、蒸氣を使ふてするもの、日光に曝すもの、又熱氣消毒と云ふて空氣を熱くして微菌を殺すもの、沸湯をかけ又は煮るもの等であります。微菌は非常に小さいものでありますから、我々はいつ

も物を水で洗つて眼に見て奇麗なればそれが清潔で、微菌など居らぬ様に思ふのであります。水で洗つても石鹼で洗つてもそれで消毒は決して出來ない、藥品を使ひ又は、日光や熱氣で殺菌をしてしまはなければ、眼で見えきれいだといふ丈では消毒にはなつて居らないのであります。

これ等の消毒法は、消毒する品物に由つてそれ／＼の消毒法を用ひます、例へば手や身體は沸湯で煮ることも出來ず、辛抱して日光に曝して居ることも出來ませんから、石炭酸、リゾール、昇汞水等で消毒するのであります。着物等は簡單な方法では日光消毒が非常に確實に目的を達せられます、日が照つた時は十分か十五分で消毒が出來ます。手間もかゝらず、費用も要らず最もよい方法であります。食器等は湯で煮るのが最もよく、蒸氣や熱氣は我々がガーゼ等を消毒するに使ひます。患者の着物等は熱湯に浸けるのが最も簡單で地質も痛まないであります。瓦斯消毒は普通の

人には出来ないのではありませんから、以上の方法が普通行ふによろしいのであります。豫防に努め、消毒を嚴重にして常に病毒に接近しないやうに心掛けることが大切なのであります。

△學齡兒童に多いインフルエンザ

インフルエンザは急性傳染病の中の一つになつてゐます。今の處ではインフルエンザ菌が原因であるとして居ります。流行性感胃と云ふ位非常に流行する病氣で、秋から冬にかけて殊に大流行をしますが、その間にもないことはありませんインフルエンザに罹る人は年齢に殆んど制限がなく、子供では比較的大きい方の子供、即ち幼稚園時代から、學齡時代に多く、哺乳兒には多くありません。併しないことではないので、哺乳兒でも罹ることがあります。感冒と云ふと、誰れも呼吸器の病氣のやうに思ふので、我々がインフルエンザであると云ふと、それでも咳嗽が出ないがといふ人が多くあります。併しインフルエンザはさうい

ふものでなく、無論呼吸器も胃しますが、胃腸を胃す場合があり、腦神經を胃す場合があります。即ち氣管支性インフルエンザ、胃腸性インフルエンザ、神經性インフルエンザと三通りに區別することが出来ます。第一のは鼻が塞り咽喉がはれ、咳が出て熱が出るので。第二のはさういふ症候はなく吐氣を催し、食慾がなく、下痢をします。殊に小さい子供にさういふのが多くあります。咳嗽をしないから、普通の消化不良の如く見えるのでありますが、流行の時は無論インフルエンザと考へるのが至當であります。第三の神經性インフルエンザは頭痛、腰痛があり、全身が非常に弱つて時としては腦膜炎ではないかと思はれる場合もあります。又稀にはインフルエンザが原因になつて腦膜炎を起すこともあります。故に此の病氣は症候が極めて多く非常に厄介で、いろ／＼の症候に現はれますから、流行でもないと思ふと診斷に難かしいのであります。斯ういふ種々の症候の外に高い熱

が何時も出ます。従つて頭痛がし、身體が痛むのです。咳嗽は出るのも出ないのもあるが。熱は續いて退かないで、一週間以上にも及ぶことがあります。か様の場合にはチフスではないかと間違へられることがある。斯ういふ時は醫師の方ではチフスに特有の診断法をすれば直に判明するのであります。それから咳嗽が頑固に出て、百日咳と間違へる場合があります。インフルエンザで麻疹のやうに發疹が出来ることがあります。併しそれは麻疹のやうに長くはなく、一時的で、一日位で退きます。此の病氣は斯くの如くうるさいが、恐ろしい病氣ではなく、一週間から三週間の中には癒ります。只恐ろしいのは餘病を起すことで、中耳炎等は殊に危険であります。黴菌が咽喉から侵入して中耳炎を起すので、それから誤つて腦に入ると腦膜炎になります。その外最も多いのは氣管支カタル、肺炎等であります。小さい子供がかふいふ病氣になると非常に危険であります。而してこ

れは空氣から傳染しますから、流行時には全く隔離する程にしたいものである。大抵は一家の中に一人患者が出来る時、殆んど防ぐことが出来ない有様である。それ故風邪をひいたといふ人の處に寄りつかない様にし、若し一家にその病人があるやうになつたら、出来ることならば隔離するのが最も安全であります。此の病氣は免疫は出来ないのみならず、一旦罹ると寧ろ罹り易い素質を作つてしまひます。時には引いて結核を起す場合がある。併しこれは前から結核の素質ある人が、此の病氣に罹つた爲めに身體が弱つて、そのために結核が現はれるのであります。要するに子供にとつては注意して避けなければならないのであります。

#### ○本會規則改正の議

本會規則に二三の改正を加へ度い議がありまして總會に於て御協議いたし度いと思ひます。就ては其の前全會員諸君に御同意を得て置き度いことがあります、本誌會告に載せてあります。同會告は是非御讀み落しなき様願ひます。

# 幼稚園の増設を望む

京都 藤田 東洋 (投)

## 一、

吾人は、幼稚園事業に關し彼是言ふべき資格無き門外漢なり。然れども、其事業に就きては多大の趣味を有する者なり。一體幼稚園事業なるものが未だ社會全般に其内容の明確に徹底せざる點よりして、種々なる誤解を招き、批難を起す事尠ならずとす。従つて其價値の如何なるものなるかを認められざるなり。之れ斯道の爲め最も遺憾とする所なり。

## 二、

幼稚園を參觀する者、一は保育の周到懇切なるを感謝するあり。或は其設備の足らざる事及恩物使用法の没趣味、幼兒の取扱の事どもを以て幼稚園教育の効果を疑ふ者もあり。然れども是等社會

の人、參觀者と雖其多數は幼稚園其物を彼是言ふに非ずして、其保育方法の拙なるよりしてこれ等の事に事を寄せ利害關係を論ずるならんか。將又保姆の人格如何を言ふにあるか。然り方法としては、幾らも改良する點なきにしも非ずと雖、變化の本體を一種の如く考へ、或は保姆の眞想を知らず所謂皮想の感を以て幼稚園全體を評價するは、其當を得ざる旨評たるに過ぎざるなり。

## 三、

抑も幼稚園の事業は、家庭に屬し、學校教育の範圍にあらず、家庭教育の及ばざる所を補ふべき補助機關に過ぎざるなり。

然るに一般社會を見るに、家庭に於て幾分母の教育の出來得る中等以上の幼兒の多くは幼稚園に